



ポイント

市の財政状況

平成23年度決算の自治体の財政状況を計る比率（健全化判断比率）の状況は次のとおりです。

区分	比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	比率なし	13.13%	18.13%
連結実質赤字比率	比率なし	20.00%	30.00%
実質公債費比率	14.9%	25.0%	35.0%
将来負担比率	88.2%	350.0%	-

このうち、『実質赤字比率』『連結実質赤字比率』は、一般会計、8つの特別会計で、いずれも赤字は生じていませんので、比率はなしとなっています。また『実質公債費比率』は14.9%、『将来負担比率』は88.2%と、いずれも早期健全化基準、財政再生基準を下回っています。



ポイント

市の財政体質

市の収入に占める市税の割合は約25%と、室蘭市と比較すると約10%低くなっています。

一方、地方交付税が収入に占める割合は、室蘭市は約15%であるのに対し、市は約25%と、地方交付税への依存度はより高くなっています。



ポイント

財源調整用基金の状況

市がもしもの時に自由に使える基金等（財源調整用基金等）は、財政調整基金、減債基金（ルール外）、北海道市町村備荒資金組合超過納付金の3種類となっています。

財源調整用基金等の状況

基金等名	平成23年度末残高
財政調整基金	5億1,497万円
減債基金の一部	3,707万円
北海道市町村備荒資金組合超過納付金	5億3,861万円
合 計	10億9,065万円

平成23年度末における財源調整用基金等の残高は、3つの基金等を合わせて、10億9千65万円となっていますが、市はこのうち、平成24年度当初予算で5億5千万円を取り崩すこととしています。

市の財政は本当に安心なの？



市の財政が健全な状態にあると聞いてほっとしました。



ところが、市の財政が本当に安心できる状態にあるかといえば、そうとも言えないんです。というのも、市民の皆さんからの税金は、市の収入の基本となる貴重なお金ですが、登別市

は、市内に大企業が少なくともあり、収入に占める税金の割合が2割ととても低いんです。



私の住んでいた隣町では、市民からの税金が収入の35%を占めていたはずですけど、税金の割合が低いと、市の財政にどのような影響を与えるんですか？



税金の割合が低いと、国からの地方交付税に多くを頼ることになります。地方交付税は、国の考

え方による増減が大きいため、それに頼る度合いが大きければ大きいほど、不安定な財政運営となってしまふんです。



そういえば、何年前かに地方交付税が大きく減らされて、全国の自治体がとても厳しい状況に追い込まれたという話を聞いたことがあります！



そうなんです。国の三位一体の改革で地方交付税が大きく減らされた時、登別は他のまちに比べ

でも特に財政が悪化し、事業や各種補助金を見直したり、職員の給料を削減したりして乗り切りました。



なるほど。今は健全な状態にあっても、地方交付税に多くを頼る登別の場合、いつ再び悪化するかわからないということですね。



いつ財政が悪化するかわからないなんて不安ですね。私たちの家庭では、もしもの時に備えて貯



金をしていますけど、市はどうなんですか？

市は、もしもの時や特別な用途に使うことを目的に、19の基金等を積み立てています。このうち、台所事情が苦しいときに使うことができるのは、3つだけと決まっています、その残高は約11億円です。市は、急に入が減ってしまった時などのために、11億円の貯金をしていくことになるんですね。



なるほど。